

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善

教科( 国語 )

	指導方法の課題分析 (学習における児童の実態等)	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>音読学習を家庭学習と併せて継続的に行うことで正確に読めるようになった。ひらがなは9割以上の児童が正しく書けるが、「は」「を」「へ」拗音、促音、長音がまだ正確に身に付いていない児童がいる。</li> <li>発表の時や話し合う時の声の大きさがうまく調節できない児童がいる。</li> <li>自分の思いや考えを分かりやすく表現することが苦手の児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を書く機会を増やし、「は」「を」「へ」の使い方に慣れる。また、繰り返し見直しをしたり友達と読みあったりして意識を高める。</li> <li>視写、聴写を取り入れ、短時間で正しく書く、正確に聞き取ることを定着させる。</li> <li>「声のものさし」を掲示し、場面による声の大きさを意識させる。</li> <li>話すことに慣れていくために、ペアやグループ、全体など意図的に人の前で話す機会を増やし、自分の思いや考えを伝えられるようにする。個人によってとらえ方が異なる物語の授業などでは、ワークシートを活用し、思いや考えを互いに伝え合う時間を確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2学期以降、おすすめの本の紹介やしたことについての感想、自分の考えをノートやワークシートに書く活動を継続的に取り入れ、書くことの作業を日常化していく。</li> <li>朝の会や、帰りの会などで楽しかったことや、経験したことなどを話したり聞いたりさせる。</li> <li>学習と関連のある本を紹介したり、読み聞かせを行ったりして読書への関心をより高めていく。</li> </ul>
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>書くこと(漢字、作文、言語事項)の習得が不十分だった。</li> <li>促音、拗音が正しく書き表せない児童がいる。</li> <li>自分の思いや考えをすすんで書いたり、話したりできる子が増えてきている。</li> <li>読書好きな児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に日記や作文を書く機会を設け、作文の中で習った漢字を使うなど、文法などの言語事項を踏まえ、丁寧に指導していく。</li> <li>ワークシートを活用して、自分の思いや考えを表現する時間、それを伝え合う時間を確保していく。</li> <li>国語の授業を通して、様々なジャンルの本と触れ合う機会を増やす。</li> <li>国語の教科書「ことばのたからばこ」等を活用し、語彙を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の会のスピーチを継続して行う。</li> <li>読書をする時間を確保し、読み聞かせなどを取り入れ、本を読む楽しさを味わわせるようにする。</li> <li>今後も感想文を書く機会を増やすように心掛ける。</li> <li>分からない言葉や漢字は辞書や国語の教科書で調べることを習慣化させる。</li> </ul>
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>読むことや書くことに意欲的な児童が多いが、既習の漢字をすすんで活用しようとせず正確に身に付いていない児童もいる。また、文字が枠の中に入れられない児童、促音や拗音が正確に書き表せない児童がいる。</li> <li>音読で、抑揚をつけながら上手に読むことはできるが、言葉の意味や文意を正しく理解していない児童がいる。</li> <li>自分の思いを伝えることが苦手の児童がいる。</li> <li>作文する際、書き出すまでに時間がかかったり、簡単にすませたりする傾向がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字は、正しく、丁寧に書けているかのチェックをこまめに確認・指導する。ノートや作文など、文字を書かせる際に、習った漢字はしっかり書くように指導する。</li> <li>音読させる活動は継続するとともに、児童に言葉の意味を尋ねたり、調べさせたりする活動もしっかりと時間を確保して行うようにする。また、主語と述語、内容の中心、段落相互の関係を意識させて読むように指導を続ける。</li> <li>全体で発表する前に、まず、自分の考えをノートに書かせるようにする。そして、近くの児童と意見交換をさせて、意見を整理したり、自信を付けさせたりする時間をつくるようにする。</li> <li>学習課題に対する解答を文章で書かせたり、学習感想を書く活動を多く取り入れることで、書き慣れさせていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>語彙の習得のために、読書の時間を増やしたり、読み聞かせや、ブックトークなども取り入れたりする。</li> <li>辞書を引く活動を日常的に取り入れる。</li> <li>朝の会等で、スピーチを継続的に行う。</li> <li>話し合いの活動を、計画的に取り入れる。</li> <li>日記等、日頃から文章を書くことを積み重ねていく。</li> </ul>
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の学習に意欲的に取り組む児童がいる一方、なかなか意欲をもてない児童も少なくない。</li> <li>音読の学習を継続しているが、漢字の読みが定着していない児童も少なくないため、自信をもって音読できない児童もいる。</li> <li>文章を正確に、深く読み取る力に個人差が大きい。</li> <li>文章を書く際、内容は決まっても書き方が分からず、思いつままに書き進めている児童が見られる。</li> <li>グループで協力して準備をし発表をする場合は意欲的に行うことができるが、普段の授業において、自分の考えを発表できる児童は多くない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習で継続的に漢字に取り組むようにし、連動して授業で漢字の反復練習や漢字テストに繰り返し取り組む。また、習った漢字はすすんで使うように声をかけ、意識させる。</li> <li>音読カードの取組を続けるとともに、読み聞かせや、音読発表会等を行う。</li> <li>段落の中心や段落相互の関係を意識させ、言葉に注目して読むように指導を続ける。</li> <li>自分の考えや感想をノートに書いて発表したり、聞いたりする活動を積み重ねていく。</li> <li>発表の仕方や場を工夫し、全員が安心して自分の考えを表現できるようにしていく。</li> <li>声を出して、自分の考えを発表する場を多くする。</li> <li>5W1Hなど、話に必要なことを身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業を組み立てるときに、書いたり話したりする回数を増やすように計画する。</li> <li>辞書を引く活動を日常的に取り入れる。</li> <li>学校図書館の活用を図る。</li> <li>小グループの話し合い活動を計画的に取り入れる。</li> <li>組み立てメモを活用し、確かめながら進めるとともに、児童同士が野外に読み合い、話し合う時間を作る。</li> </ul>
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>書くこと(漢字、作文、言語事項)の習得が不十分。</li> <li>文章を正確に、深く読み取る力に個人差がある。</li> <li>自分の言葉で伝えたいことを相手に分かるように書いたり、話したりすることは個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続的に漢字を活用する場を設けていく。漢字テストを繰り返し行っていく。</li> <li>読む活動から、書く活動や話す活動へと発展させていくような指導計画を立てる。説明文の単元において段落構成図を書く</li> <li>普段から問いに対して、書いてから答えるなど、考えることと書くことを関わらせながら学習に取り組むよう指導していく。やや難しい言葉を使い、言語に対して興味や関心をもてるような環境をつくっていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字テストや宿題で細かく添削し、正確な形を意識させる。</li> <li>和歌に言葉や漢字は辞書や国語の教科書で調べることを習慣化させる。</li> <li>図書時間を充実させ、読書からも読み取る力を付ける。</li> <li>書く活動や話す活動を日常化し、注意すべき点を指導していく。</li> </ul>
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の力や学年相応の語彙力の定着は、個人差が大きい。</li> <li>読み手を意識し、構成や表現を工夫して文章を書く力が不十分である。</li> <li>自分の意見をもったり、友達の意見を聞いて自分の考えを深めたりする児童はいるが、積極的に表現するに至っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字小テストを週に1回行い、定着を図る。</li> <li>辞書を活用する機会を増やし、言葉の世界を広げられるような活動を工夫する。教材文の意味調べ、四字熟語・ことわざ・慣用句調べなどを継続的に行わせる。</li> <li>書く能力を高めるために、特に「取材」、「選材」の段階と、「推敲」の段階を個人だけでなく複数で行わせる等の工夫をする。</li> <li>自分の意見を持ち、それを伝えることができるよう、ペアや少人数グループによる話し合い活動を授業の中に確保していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字小テストと、漢字の書き取り等の繰り返し学習を徹底させる。</li> <li>書き慣れさせるために、振り返りジャーナル等の日常活動を取り入れる。</li> </ul>